

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載  
【部門区分】第1部門第1区分  
【発行日】平成17年1月13日(2005.1.13)

【公表番号】特表2000-511425(P2000-511425A)

【公表日】平成12年9月5日(2000.9.5)

【出願番号】特願平9-543071

【国際特許分類第7版】

C 1 2 N 15/09

A 6 1 P 35/00

A 6 1 K 39/395

C 0 7 K 16/18

C 0 7 K 16/46

C 1 2 P 21/08

【F I】

C 1 2 N 15/00 A

A 6 1 K 31/00 6 3 5

A 6 1 K 39/395

C 0 7 K 16/18

C 0 7 K 16/46

C 1 2 P 21/08

【手続補正書】

【提出日】平成16年5月20日(2004.5.20)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

## 手続補正書

平成16年 5 月 20 日

特許庁長官 殿

## 1. 事件の表示

特願平9-543071号

## 2. 補正をする者

名称 ヘルス・リサーチ・インコーポレーテッド



## 3. 代理人

東京都千代田区霞が関3丁目7番2号  
鈴 榮 特 許 綜 合 法 律 事 務 所 内  
〒100-0013 電話03(3502)3181(大代表)  
( 5 8 4 7 ) 弁 理 士 鈴 江 武 彦



## 4. 自発補正

5. 補正により減りする請求項の数 37

## 6. 補正の対象

請求の範囲

## 7. 補正の内容

請求の範囲の記載を別紙の通りに訂正します。

方式



## 請求の範囲

1. 増殖ヒト血管内皮細胞で発現するエンドグリンおよび増殖マウス内皮細胞で発現するエンドグリンに対して検出可能な結合特異性を有するモノクローナル抗体またはその断片であって、増殖マウス内皮細胞で発現するエンドグリンに対する結合特異性が、増殖ヒト血管内皮細胞で発現するエンドグリンに対する結合特異性よりも低いことを特徴とするモノクローナル抗体またはその断片。
2. 前記断片が、 $F(a b')_2$ 、 $F a b'$ 、 $F a b$ 、 $F v$ 、 $F d'$  および  $F d$  からなる群から選択されることを特徴とする、請求の範囲第1項に記載のモノクローナル抗体の断片。
3. 前記抗体が、ヒトエンドグリンおよびマウスエンドグリンの両者に対する抗エンドグリン結合特異性を有するマウスの可変領域と、ヒトの不変領域とを含むキメラ抗体であることを特徴とする、請求の範囲第1項に記載のモノクローナル抗体またはその断片。
4. 前記抗体が、ヒトエンドグリンおよびマウスエンドグリンの両者に対する抗エンドグリン結合特異性を有するマウスの超可変領域と、ヒト免疫グロブリンの不変領域配列および可変領域配列とを含むヒト化抗体であることを特徴とする、請求項1に記載のモノクローナル抗体またはその断片。
5. 哺乳動物宿主における血管新生関連疾患の抗血管新生療法のための組成物であって、血管新生阻害剤および抗腫瘍剤からなる群から選択される物質に結合された請求の範囲第1項に記載のモノクローナル抗体またはその断片から形成された、治療的有効量の免疫複合体を含有することを特徴とする組成物。
6. 血管新生阻害剤および抗腫瘍剤からなる群から選択される物質に結合された請求の範囲第1項に記載のモノクローナル抗体またはその断片から形成された免疫複合体の使用であって、哺乳類宿主における腫瘍の抗血管新生療法のための医薬組成物を製造するための使用。
7. 哺乳動物における血管新生関連疾患の抗血管新生療法のための二部分からなる医薬を製造するための、請求の範囲第1項に記載のモノクローナル抗体またはその断片の使用であって、前記医薬が、順次投与するための

(a) 非複合形態の、請求の範囲第1項に記載のモノクローナル抗体またはその断片を含む組成物、および

(b) 血管新生阻害剤および抗腫瘍剤からなる群から選択される物質に結合された請求の範囲第1項に記載のモノクローナル抗体またはその断片によって形成された、治療的有効量の免疫複合体を含む組成物を含んでなることを特徴とする使用。

出願人代理人 弁理士 鈴江 武彦